

技術評価報告書

申込者： 岸和田製鋼株式会社 代表取締役社長 鞠子 重孝
大阪府岸和田市臨海町20番地
株式会社岸鋼加工 代表取締役社長 鞠子 重孝
大阪府岸和田市岸之浦町6番3

技術名称： スーパーフープ 685、スーパーフープ 785 設計施工指針(2022年)

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2022年3月11日付けの技術評価書(SABTEC 評価 15-02R3)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2022年3月11日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
代表理事 益尾 潔

建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田 才 晃	横浜国立大学	名誉教授
委員	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	勅使川原正臣	中部大学工学部建築学科	教授
〃	都祭 弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授



技術評価書

申込者： 岸和田製鋼株式会社 代表取締役社長 鞠子 重孝
大阪府岸和田市臨海町20番地
株式会社岸鋼加工 代表取締役社長 鞠子 重孝
大阪府岸和田市岸之浦町6番3

技術名称： スーパーフープ685、スーパーフープ785 設計施工指針(2022年)

技術概要： スーパーフープ685、スーパーフープ785は、岸和田製鋼(株)が製造する大臣認定の高強度せん断補強筋用鉄筋棒鋼KH685、KH785を用いた鉄筋コンクリート造柱、梁の685N/mm²級および785N/mm²級高強度せん断補強筋であり、溶接閉鎖型、フック形式およびキャップタイ形式として用いることができる。
スーパーフープ785設計施工指針は、GBRC性能証明第10-10号(2011年2月9日)を取得後、スーパーフープ685が開発され、SABTEC評価15-02(2015年9月25日)はスーパーフープ685設計施工指針、SABTEC評価15-02R1(2018年11月2日)はスーパーフープ685、スーパーフープ785設計施工指針(2018年)について行われている。また、SABTEC評価15-02R2(2021年8月2日)は、SABTEC高強度せん断補強筋設計施工指針(2021年)と同様、7章「中段筋基礎梁の設計」、8章「構造規定」としたスーパーフープ685、スーパーフープ785設計施工指針(2021年)について行われ、SABTEC評価15-02R3(2022年3月11日)は、申込会社名が岸和田製鋼(株)と岸和田金属(株)から岸和田製鋼(株)と(株)岸鋼加工への変更に伴うものであり、設計規定の変更は行われていない。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定め
た技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2022年3月11日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
建築構造技術審議委員会
委員長 窪田 敏行

記

評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った
スーパーフープ685、スーパーフープ785設計施工指針および関連資料
これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめ
られている。

評価内容： スーパーフープ685およびスーパーフープ785を用いた鉄筋コンクリート造柱、梁
は、長期荷重時に使用上支障を来たすひび割れおよび短期荷重時に修復性を損なうひ
び割れを起こさず、スーパーフープ685、スーパーフープ785設計施工指針に定めら
れたせん断終局耐力を有すると判断される。

技術評価内容

申込者

岸和田製鋼株式会社
代表取締役社長 鞠子 重孝
大阪府岸和田市臨海町20番地
株式会社岸鋼加工
代表取締役社長 鞠子 重孝
大阪府岸和田市岸之浦町6番3

技術名称

スーパーフープ 685、スーパーフープ 785 設計施工指針(2022年)

適用範囲

- (1) 適用部位 鉄筋コンクリート造柱、梁
(2) 材 料

せん断補強筋 (スーパーフープ 685) 種 類 : KH685
(大臣認定番号 MSRB-0087、平成 26 年 11 月 6 日)
(スーパーフープ 785) 種 類 : KH785
(大臣認定番号 MSRB-0061、平成 23 年 1 月 27 日)
呼び名 : スーパーフープ 685、スーパーフープ 785 とともに、
K10, K13, K16
コンクリート 種 類 : 普通コンクリート
設計基準強度 : 21 N/mm² 以上、60 N/mm² 以下

技術評価の経過

2022年3月11日開催の第53回建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について検討し、本技術は妥当なものであることを確認した。

以上